

# 高校と地域で創る未来の学びプロジェクト

## 現状

- 少子化や都市部の高校への流出により、高校の小規模化が加速
- これまでも、地元自治体から活動費補助等の協力も得ながら、地域と連携した課題解決型学習のカリキュラム開発等を行うなど、高校の魅力づくりを進めているが、十分な生徒募集につながっていない。
- 一方、全国では、自治体等からの先進的な支援（コーディネーターの配置、寄宿舎や公営塾の整備等）を得た高校が、地元生徒だけでなく都市部・県外からも生徒が集まる特色・魅力ある活動を実施しており、本県からの流出も増加
- 地方創生の観点からも高校が地域に存在する意義は大きく、これまで以上に高校と自治体との連携強化が必要

## 課題

- ◆高校と自治体の更なる連携強化
- ◆生徒募集に関する、高校や自治体等の意識改革
- ◆高校の更なる魅力化・特色化による地元中学生の都市部への流出抑制と県内外からの志願者の増加

小規模校等から、「指定校」及び「準指定校」を指定し、全国的な競争力の強化を図る。

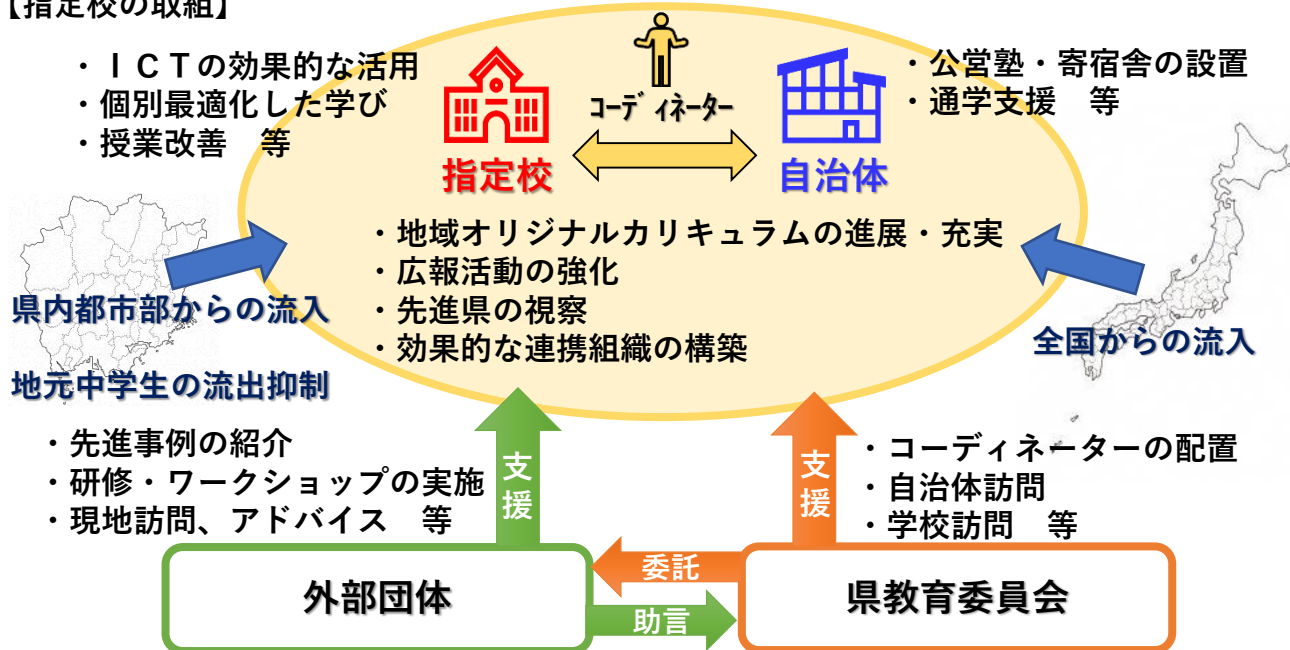
【指定校】（公募3校：2年間）

全国的な高校の魅力化の知見を有する外部団体からの支援を受けながら、効果的な組織を構築し、カリキュラム開発や教育環境整備等を進める。

【準指定校】（1学年3学級の高校5校：2年間）

コーディネーターの配置及び地域連携組織の設置により、地域連携を強化する。

### 【指定校の取組】



## 取組

## 期待される効果

- 地域資源を活かした魅力的なカリキュラムや授業改善等の進展・充実
- 教育環境の整備・充実

- 自分事として課題に向き合い、挑戦する力の伸長
- 進学実績の向上
- 県内外からの志願者や教育移住者の増加
- 多地域からの生徒同士による新たな人間関係の形成
- 地元中学生の都市部への流出抑制
- 県外進学等をした卒業生によるUターンの増加